

【ゆずサンサングループの活動・地域福祉アクションプランの取り組み】

I： 私たちの「ゆずサンサングループ」は、地域の女性たちが交流人口を増やして、地域の活性化を図ろうじゃないかということで平成18年に結成しました。

主な活動としましては、北川村の特産品である実生（みしょう）ユズを使った田舎寿司の提供です。おかげさまで実生ユズ果汁が「高知県Eマーク商品認証事業」で認証され、マスコミや、本の取材を受けました。昨年は、東京のアンテナショップ「まるごと高知」の料理長さんに田舎寿司のレシピを教えて、大変好評でした。北川村の実生ユズが交流人口の拡大にちょっとでもお役に立てたかなと感じています。

昨年からは、高知県東海岸町並みネットワーク事業の1つである「土佐の町家雛まつり」に中岡慎太郎の生家を会場として参加しています。

昨年は、NHK大河「龍馬伝」で非常に高知県盛り上がりました。特に北川村は中岡慎太郎のふるさとだということで期待も多く、ドラマで中岡慎太郎役の「上川隆也さんをお迎えする会」を開催しました。遠くは北海道、秋田、広島、岡山からも来ていただいて、本当に人との出会いをたくさん経験することができました。こういう活動を通して交流人口が増えて、今でも交流が続いています。

県や国へ報告する北川村の高齢化率は38.9%ですが、北川村では高齢化率を計算するときには80歳になったら高齢者ということにしていますので、15.1%です。県のほうで高知型福祉ということで取り組まれています。私は仕事柄、社会福祉協議会で地域福祉アクションプランの計画を立てています。高知型プランの県の柱はありますけれども、北川村バージョンという形で、北川村に合った高知型福祉を作らないといけないと思っています。

10年後にピークを迎えると言われていた高齢化を考えて、地元にあった福祉も、地元にあった観光も、小銭を稼ぐためではなく、北川村のおばちゃんたちと関わってくれた人が、北川村に行ってよかったと思ってくれるような活動をするのが私たちの仕事かなと思っています。

高齢化だから後継者が育たないではなく、活動している自分たちが楽しくなかったら後へ人が入ってくれないので、働ける人は楽しみながら活動を展開していきたいと思います。今までも、中芸地区の他の地域と一緒にいろいろな事業に取り組んできましたが、これからも皆で手を携えて、協力していかないといけないと思いました。

知事にお願ひがあります。インターネットで検索してみると、すぐ沖縄のアンテナショップが出て、「まるごと高知」が目立たない。それがちょっと悔しかったので、インターネットで検索したときにぱっと目につくようになればいいなと思いました。

知事： アンテナショップ「まるごと高知」オープンに際しまして、田舎寿司の作り方を教えていただき、ありがとうございました。「まるごと高知」2Fのレストランのテーブルに実生のユズ酢を置かせてもらっているのですが、大変好評で、使っていただくことで、

実生ユズの素晴らしさを知っていただこうと思っています。お話にありましたホームページの対応も、もうちょっと工夫するようにいたします。

それから観光関係のお話ですが、7月9日に「志国高知 龍馬ふるさと博」がグランドオープンし、高知駅前には「龍馬伝」幕末志士社中と「ときてらす」がオープンします。地域を偉人でもってPRするという仕組みが新しいパビリオンの中にあり、中岡慎太郎も徹底的にPRします。前回の「土佐・龍馬であい博」のときの高知・龍馬ろまん社中は、どちらかと言うと大河ドラマ関連の展示が中心だったんですけども、今回は、各地域をその地域の偉人の物語を通じて紹介するという仕組みにしています。まず、高知においていただくことと、それから県内各地の紹介機能と、その組み合わせでやっていきたいと思えます。

最後、地元に応じた福祉のお話ですが、おっしゃるとおりだと思います。例えば、「あつたかふれあいセンター」も地域によって機能が違い、北川村はサテライトサロンで取り組んでいただいているところですけど、今年度、地域福祉活動計画づくりをしていただく中で、地域に合った取り組みを進めていただき、また、教えていただきたいと思えます。